

2010年の羽坂林道周辺における鳥類相

柳町 邦光*

The bird fauna of around Hazaka Woody Pass in 2010

Kunimitsu YANAGIMACHI*

(要旨) 福井市西部の近郊に位置する羽坂林道において、そこに生息する鳥類相を2010年の春季および秋季に亘ってスポットセンサス法によるモニタリング調査を実施したところ、9目24科58種の鳥類が確認された。この種構成は留鳥が27種、夏鳥が14種、冬鳥が13種、旅鳥が4種であった。また、これらの中に福井県レッドデータブックに記載されている希少種6種が含まれており、22種が繁殖している可能性が極めて高かった。季節別では春季には46種、秋季には35種が観察された。調査区域において、平均確認密度、平均優占度および出現率ではいずれもヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* が最も高かった。

羽坂林道では過去3回の調査も含めて75種が確認され、年間を通じて多くの野鳥が生息し、春秋の渡り時期には良い休息地となっている。この里山の自然環境を保全していくために、今後も継続的な調査が重要であろう。

キーワード：里山の鳥類相、羽坂林道、スポットセンサス調査

1 はじめに

自然環境を保全するにはその区域における生物の生息・生育環境について、その種類、面積、自然構造等を多角的に分析し、その結果を資料として残し実際に応用していくことが重要である。鳥類においても環境の違いおよび季節の変動によって生息する種類や種数が異なること知られている。地球規模での温暖化の影響が各国で懸念されている現在、広いエリアを移動する鳥類について、その動向や消長を知るためにも、同じ場所における長期的に且つ科学的なデータ収集とその集積が重要である。これらのデータから、そこに生息する鳥類相を把握して、そのデータの比較ができれば自然環境の変化も見えてくるであろう。

そこで、福井市郊外の西部山稜地に位置する羽坂林道周辺でのモニタリング調査を、2010年の春季および秋季にスポットセンサス法により行ったので報告する。この調査地では2000～2002年にモニタリング調査を実施しており(柳町, 2009)、これらの比較によって自然環境の保全を図っていく上での基礎資料となれば幸いである。

2 調査地および調査方法

調査地は福井県福井市羽坂町地係(136.08°E, 36.03°N)

に位置し、西部山稜地へ通ずる通称羽坂林道(標高80m～200m)である。この西部山稜地は福井市街地と越前海岸との間に位置し、国見岳(標高656m)を中心とした山稜がほぼ南北に連なっている。この山稜には西郷林道および二枚田幹線林道があり、羽坂林道は福井市街地からこの西郷林道へ通ずる林道の一つである(図1)。調査地域の環境は、高木のクヌギやコナラ、ホオノキ等の他、低木のマンサクやリョウブ、エゴノキ等の落葉広葉樹および植林された杉林がモザイク状に混ざる代表的な里山である。

調査地の鳥類相をより精度高く把握するために、調査時期および日数に関して年間20日間以上の日数が必要であるという報告(大迫ほか, 1996)がある。通年でもなお且つ日数を多くすることが望ましいが、しかし現実的には天候不順や積雪、土砂崩れによる通行不能等で困難である。そこで春季は繁殖期および渡り時期である3月～6月とし、秋季は渡り時期と冬鳥の渡来時期である9月～12月に設定し、調査日数は延べ23日間実施した。

調査区域は、過去にラインセンサス法で実施(柳町, 2009)した区域、即ち片側それぞれ約25mとその上空とし、距離は約2.2kmでその面積は約11haとした(図1)。調査方法は、この調査区域内にA～Gの調査地点を設定し、その環境写真を図2に示した。各地点の半径約50mの範囲内でそれぞれに10分間に見聞きした鳥類と

*〒918-8046 福井市運動公園1-2703

*1-2703 Undokoen, Fukui City, Fukui 918-8046, Japan

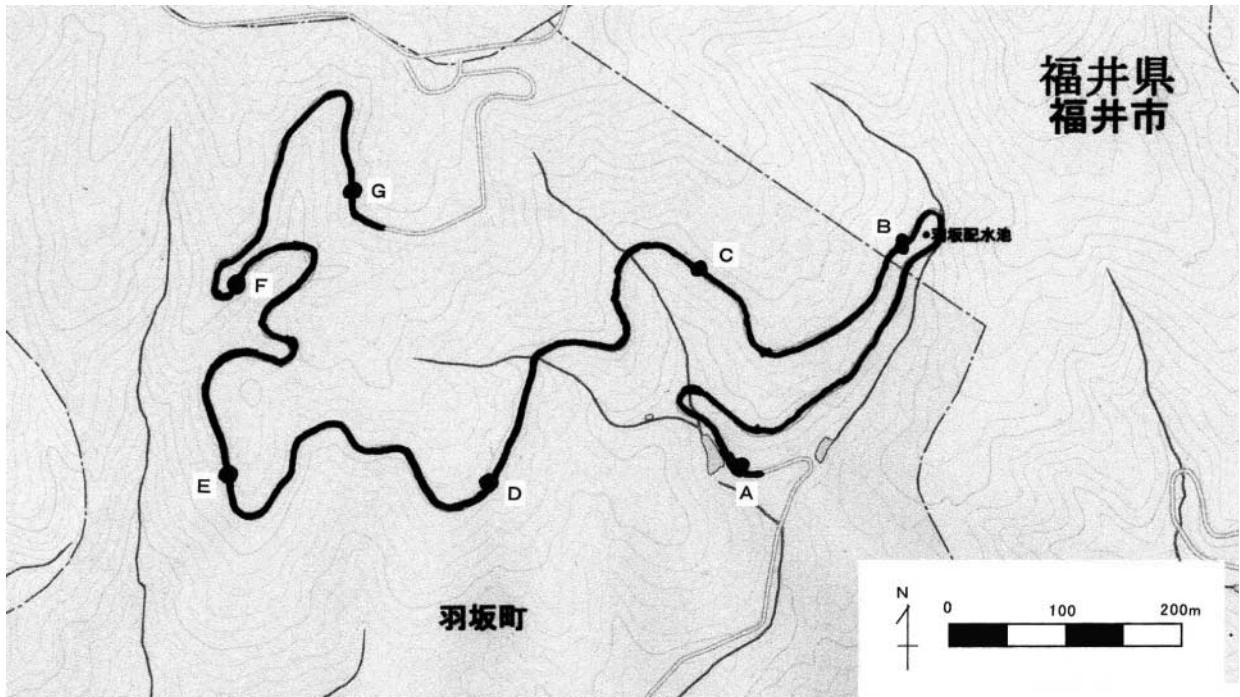


図1：調査区域の概略図

その個体数を、10倍の双眼鏡および60倍の望遠鏡を用いて記録するスポットセンサス法で実施した。調査時間はほぼ日の出時刻より約30分前から1時間30分ほどの間に実施し、可能な限り晴天～曇天で風の無い日を充てた。繁殖記録については、過去に繁殖が確認された種および繁殖期間のほぼ2カ月間に、囀りや縄張り行動が継続して確認された種および幼鳥の確認等の場合とした。なお、各調査地点の植生の概略は表1に示した。

3 結果

2010年の調査で記録された鳥類は9目24科58種で、その種名リストおよび調査日毎の確認密度(7地点の合計個体数÷11ha)を表2に示した。「福井の鳥とけものたち」(福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会編, 1998)には福井県の鳥類目録として計18目63科317種が掲載されており、本調査ではその18.3%が観察されたことになる。表中の「渡り区分」については「福井の鳥とけものたち」に従えばコマドリ、コルリ、メボソムシクイの3種は夏鳥であるが、局所的な羽坂林道の調査地では中継地として一時的に観察される旅鳥なので「旅・夏」とした。同じくルリビタキ、コガラ、ヒガラ、ウソの4種は留鳥であるが冬季に観察されるので「冬・留」とした。また、ヒヨドリ、ウグイスは留鳥であるが移動性のあることから「留・漂」とした。その結果、調査地での58種の構成は、留鳥27種(46.6%)、夏鳥14種(24.1%)、冬鳥13種(22.4%)、旅鳥4種(6.9%)であった。これらのうち「福井県の絶滅のお

それのある野生動物」(福井県, 2002)に掲載されている種は、絶滅危惧Ⅱ類ではハチクマ、ハイタカ、サンショウクイの3種が、準絶滅危惧ではツミ、アカショウビン、サンコウチョウの3種が確認された。また22種については繁殖の可能性が極めて高かった。調査地点外で確認された種はハチクマ、アオバト、アカショウビン、トラツグミの4種であった。ハチクマは秋の渡り時期に上空を滑空するのが確認された。アカショウビンは羽坂林道周辺にある沢筋付近からその鳴き声の確認された。またアオバトとトラツグミはその特徴ある鳴き声が調査地外から聞かれ、その生息が確認された。

平均確認密度の上位10種はヒヨドリ、アトリ、メジロ、ウグイス、シジュウカラ、ホオジロ、ヤマガラ、コゲラ、エナガ、ヒガラであった。ヒヨドリは期間を通して多くの個体が、特に春秋の渡り時期に大群での移動が確認され、その移動性がその数値を押し上げた。2位のアトリは冬鳥でありながら4月の渡去前に300羽余りの大群が確認されたことから特異的な値となった。3位のメジロは数羽から十数羽の群れでいることが多く殆どの調査日に確認された。ウグイスは春季の囀りがよく響き渡り、初夏の林道ではウグイスだらけの様相であったし、秋季には草むらの下藪での地鳴きも多く聞かれたことから、その生息状態が頻繁に確認された。次いでシジュウカラ、ホオジロ、ヤマガラと続くが、これらは里山の代表種と言われているものの、メジロやウグイスのそれよりも低かったことは、その概念を覆すほどだった。8位のコゲラはいつも単独で確認されることが多いものの、平均確認密度が高かつ

表1：各調査地点の概要

		A点	B点	C点	D点	E点	F点	G点
面積=半径50m円内(ha)		0.79	0.79	0.79	0.79	0.79	0.79	0.79
A地点からの距離(km)		0.0	0.5	0.8	1.3	1.6	2.1	2.5
植生 (被植割合)	杉植林	80%	70%	30%	10%	10%	10%	30%
	落広林	20%	25%	10%	80%	60%	60%	60%
	草・低木林			60%				5%
	その他		5%		10%	30%	30%	5%
確認種数		35	30	37	29	31	27	33
個体数		345	339	464	298	266	673	368



図2：各調査地点の環境写真

表2：羽坂林道で確認された鳥類リストと確認密度

目	科	種名	学名	渡り区分	3/19	4/4	4/10	4/17	4/26	5/4	5/15	5/21	5/30
ガンカモ	ガンカモ	カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	留						0.09			
ワシタカ	ワシタカ	ハチクマ	<i>Pernis apivorus</i>	夏									
		* トビ	<i>Milvus migrans</i>	留	0.09								
		ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	留									
		ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	留									
		サシバ	<i>Butastur indicus</i>	夏			0.09						
キジ	キジ	* ヤマドリ	<i>Phasianus soemmerringii</i>	留									
チドリ	シギ	クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	冬・旅									
		アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i>	冬									
ハト	ハト	* キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	留		0.27	0.27		0.09	0.18	0.36	0.36	0.45
		アオバト	<i>Sphenurus sieboidii</i>	留						△			△
ホトトギス	ホトトギス	* ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>	夏					△	△	△	0.09	△
		ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	夏									△
ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	夏									△
		* カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	留						0.09	0.09		
キツツキ	キツツキ	* アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	留		0.09	0.36		△	△	△	△	0.09
		* アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	留					0.09				
		* コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	留	0.18	0.55	1.00	0.55	0.55	0.18	0.18	0.09	0.36
スズメ	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	夏									0.64
		イワツツバメ	<i>Delichon urbica</i>	夏									
	セキレイ	* キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	留			0.09	0.09	0.09	0.09			
	サンショウクイ	* サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	夏					0.09	0.27	0.18	0.36	0.09
	ヒヨドリ	* ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	留・漂	1.09	0.45	0.82	0.73	1.82	7.00	2.64	3.45	1.91
	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	留									
	ミソサザイ	* ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	留		0.18	0.09		0.09				
	ツグミ	コマドリ	<i>Erithacus akahige</i>	旅・夏			0.09	△	0.27				
		コルリ	<i>Erithacus cyane</i>	旅・夏							0.27		
		ルリビタキ	<i>Erithacus cyanurus</i>	冬・留	0.09	0.36	0.09	0.09					
		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	冬			0.09						
		トラツグミ	<i>Turdus dauma</i>	留				△		△		△	
		クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	夏				△	△	0.18	△	0.09	
		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	冬				0.09		0.09			
		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	冬									
ウグイス		* ヤブサメ	<i>Cettia squameiceps</i>	夏			0.82	0.45	0.45	0.64	0.09	0.18	0.36
		* ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	留・漂	1.36	1.73	1.45	1.27	1.27	0.82	0.73	1.00	0.91
		メボソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>	旅・夏									
		エゾムシクイ	<i>Phylloscopus tenellipes</i>	旅						0.18			
		* センダイムシクイ	<i>Phylloscopus occipitalis</i>	夏		0.18	0.27	0.27	0.18	0.45	0.55	0.18	0.27
ヒタキ		* キビタキ	<i>Ficedula narsissina</i>	夏					0.36	0.45	0.45	0.18	0.18
		* オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	夏			0.09		0.09	0.09	0.27	0.18	0.09
カササギヒタキ		* サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	夏							0.18	0.09	0.27
エナガ		* エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	留	0.45	1.00	0.91	1.00			0.18	0.18	0.36
シジュウカラ		コガラ	<i>Parus montanus</i>	冬・留									
		ヒガラ	<i>Parus ater</i>	冬・留	0.27	0.73	0.27	0.55	0.18			0.55	
		* ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	留	1.09	1.09	0.82	0.45	0.36	0.64	0.09	0.27	0.45
		* シジュウカラ	<i>Parus major</i>	留	1.09	1.36	1.00	0.45	1.00	0.82	0.82	0.18	0.73
メジロ		* メジロ	<i>Zosterops japonica</i>	留		0.55	1.55	1.36	1.64	0.91	1.45	1.09	1.73
ホオジロ		* ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	留	1.27	1.27	1.09	0.45	0.64	0.09	0.64	0.36	0.36
		アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	冬	0.27		0.09	0.27	0.45	0.18			
アトリ		アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	冬		28.00	0.82	0.82					
		* カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	留	0.64	0.64	0.64	0.09	0.18	0.18		0.09	0.09
		マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	冬									
		ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	冬		0.09							
		ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	冬・留	0.27	0.18							
		イカル	<i>Eophona personata</i>	留			0.64		△	0.82	0.27	0.18	0.27
カラス		カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	留	0.27	0.45	0.27		0.18				
		* ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	留	0.64		0.18		0.09			0.09	
		ハシブトカラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	留									
9目	24科	58種	調査日別確認密度		9.09	39.18	13.91	9.00	10.18	14.45	9.45	9.27	9.64
			調査日別確認種数**		15	19	27	19	27	25	22	22	23

*＝繁殖の可能性が極めて高い種 **確認種数＝半径50m以内で確認された種及び個体数 △＝範囲外で確認された種のみを記録

2010年の羽坂林道周辺における鳥類相

6/4	6/10	6/17	6/28	9/15	9/25	10/3	10/12	10/17	10/30	11/13	11/17	12/8	12/24	平均確認密度	順位
		0.18	0.18											0.020	
0.09		0.09		△	△	0.09	0.09					0.09		△	
					0.09									0.020	
														0.004	
					0.09									0.004	
				△	△									0.004	
		0.09	0.09			0.18					0.09			0.020	
									0.09					0.004	
												0.09		0.004	
0.09	0.36	0.18		0.27	0.09			0.09	0.09	0.09	0.09			0.146	
	△						△							△	
△		0.18												0.012	
△	0.09													0.004	
	△	△	△											△	
				0.09										0.012	
			△			0.09	0.09	0.09	△		△			0.036	
0.18	0.36	0.45	0.18	0.27	0.45	0.27	0.18	0.36	0.55	0.18	0.09	0.27	0.18	0.016	
0.36		0.09			1.73									0.332	8
			0.18											0.123	
														0.008	
				0.18				0.09						0.028	
0.36	0.18	0.09	0.09											0.075	
2.45	2.27	3.18	2.73	1.00	1.64	2.91	1.18	1.45	0.55	5.36	2.18	0.64	0.27	2.075	1
										0.09	0.09			0.008	
											0.18	0.09	0.09	0.032	
														0.016	
														0.012	
										0.64	0.55	0.55	0.36	0.119	
														0.004	
0.18	△	△	△											△	
		△	△											0.020	
							0.45	0.09	0.18	0.09	0.09			0.047	
									0.18	0.64				0.036	
0.09	0.27	0.36	0.36											0.178	
0.73	0.55	0.73	0.82	0.36	0.82	0.36	0.18	0.45	1.45	1.18	0.55	0.45		0.834	4
0.27														0.012	
														0.008	
0.09	0.27	0.18	0.09						0.73					0.162	
0.18	0.27	0.27	0.27											0.115	
0.09	0.18	0.27												0.059	
0.18	0.18	0.36	0.27											0.067	
0.18								1.45		1.00	0.27	0.36		0.320	9
										0.09			0.27	0.016	
			0.09					0.55	0.45	0.36	0.27	0.82	1.18	0.273	10
0.82	0.09	0.55	0.36	0.18	0.18	1.00		0.36	0.09	0.45	0.82	1.00	0.36	0.502	7
0.36	0.64	0.45	0.55	0.09	0.64	0.64	1.09	1.18	0.91	1.27	0.82	0.64	1.27	0.783	5
1.36	1.45	1.82	1.36	1.45	2.00	1.00	2.36	1.18	0.18	1.55	0.82	0.27	0.82	1.213	3
0.18	0.64	0.55	0.73	0.27	0.36	0.36	0.27	0.18	1.55	0.64	0.64	0.64	0.18	0.581	6
							0.18		0.82	0.55	0.27	0.45	0.55	0.178	
0.45		0.18	0.18			0.18		0.18			0.36			1.320	2
											0.18	0.27		0.166	
							0.73		0.45		0.27			0.063	
														0.004	
											0.09			0.024	
△	0.27	0.18	0.27		0.09	0.27	0.27	0.64						0.182	
				0.09	0.55	0.36	0.36	0.73	1.00	0.73	0.82		0.18	0.261	
0.09			0.18			0.64							0.36	0.099	
				0.18						0.09	0.36		0.18	0.036	
8.82	8.09	10.45	9.09	4.36	8.73	8.36	7.36	9.09	9.36	15.27	9.73	6.82	6.18		
24	19	24	23	13	15	14	13	16	18	19	23	16	14		

表3：調査地点別の優占度および出現率

種名 / 地点	A 順位	B 順位	C 順位	D 順位	E 順位	F 順位	G 順位	平均優占度 順位	出現率 順位
カルガモ	1.47							0.21	0.13
ハチクマ								△	0.09
トビ	0.29		0.44	0.35			0.27	0.19	0.22
ツミ						0.15		0.02	0.04
ハイタカ			0.22					0.03	0.04
サシバ		0.59			0.39	0.30	0.27	0.04	0.13
ヤマドリ								0.18	0.17
クサシギ	0.29							0.04	0.04
アオシギ	0.29							0.04	0.04
キジバト	2.35	1.78	1.32	1.39	0.78	0.90	1.37	1.41	0.70 8
アオバト								△	0.17
ツツドリ	0.29	0.30	0.22					0.12	0.30
ホトトギス							0.27	0.04	0.13
アカショウビン								△	0.17
カワセミ	0.88							0.13	0.13
アオゲラ			0.44	0.35	0.39	0.45	0.55	0.31	0.57 10
アカゲラ	0.29	0.30	0.22		0.39			0.17	0.17
コゲラ	2.93 10	2.96 8	2.86 9	4.53 7	3.50 5	2.86 6	2.73 10	3.20 8	1.00 1
ツバメ	6.16 5	0.59	0.66	1.74				1.31	0.17
イワツバメ					0.78			0.11	0.04
キセキレイ	0.59	1.48						0.30	0.26
サンショウクイ	0.59	0.30	1.10	2.79 10	0.78		0.27	0.83	0.39
ヒヨドリ	20.23 1	34.02 1	13.88 2	12.20 2	33.46 1	13.55 2	18.31 1	20.81 1	1.00 1
モズ			0.44					0.06	0.09
ミソサザイ	0.88	0.89	0.22				0.27	0.32	0.26
コマドリ		0.89	0.22					0.16	0.13
コルリ	0.29			0.70				0.14	0.04
ルリビタキ	1.76	1.78	1.10	1.05	1.56	0.30	1.09	1.23	0.35
ジョウビタキ			0.22					0.03	0.04
トラツグミ								△	0.22
クロツグミ	0.59		0.44		0.39			0.20	0.35
シロハラ	0.29	0.30	0.88		1.17	0.30	0.27	0.46	0.30
ツグミ			0.66	1.05	0.39		0.55	0.38	0.09
ヤブサメ	1.47	3.25 7	1.98	2.09	1.17	0.75	1.64	1.76	0.48
ウグイス	10.56 2	8.58 3	13.88 2	6.62 5	5.45 3	2.86 6	8.47 4	8.06 3	0.96 5
メボソムシクイ							0.82	0.12	0.04
エゾムシクイ							0.55	0.08	0.04
センダイムシクイ	0.59	1.18	3.74 7	1.74	1.56	0.60	1.37	1.54	0.57 10
キビタキ		1.18	1.54	2.09	0.78	0.75	1.37	1.10	0.39
オオルリ	0.88	1.18	0.88		1.56			0.64	0.39
サンコウチョウ	1.17	2.07 10	0.88	0.70				0.69	0.30
エナガ	4.40 8	4.73 5	0.66	3.83 8	2.33 8	2.56 9	3.55 9	3.15 9	0.52
コガラ			0.22	1.05				0.18	0.09
ヒガラ	4.69 7	1.18	0.44	3.14 9	2.33 8	2.11 10	4.92 7	2.69 10	0.57 10
ヤマガラ	5.87 6	4.44 6	4.85 6	8.36 4	2.33 8	3.31 5	5.46 6	4.95 7	0.96 5
シジュウカラ	6.45 4	7.69 4	6.83 5	11.85 3	5.06 4	5.87 4	9.02 3	7.54 5	1.00 1
メジロ	8.50 3	9.47 2	8.81 4	15.68 1	18.68 2	7.53 3	17.21 2	12.27 2	0.96 5
ホオジロ	2.93 10	1.18	16.08 1	4.88 6	2.33	2.86 6	5.74 5	5.14 6	1.00 1
アオジ	4.11 9	1.78	2.20	1.39	1.17	0.45	1.37	1.78	0.48
アトリ			0.66	2.44	0.78	46.39 1	3.83 8	7.73 4	0.26
カワラヒワ	2.35	0.59	3.74 7	1.74	1.17	0.75	0.55	1.56	0.57 10
マヒワ				1.05		0.75	2.19	0.57	0.13
ベニマシコ						0.15		0.02	0.04
ウソ					0.39	0.30	0.82	0.22	0.13
イカル	2.05	2.66 9	2.42 10	1.74	2.72 7	0.75	0.55	1.84	0.61 9
カケス	2.05	1.78	3.52	2.44	3.11 6	1.81	2.73 10	2.49	0.57 10
ハシボソガラス	1.17		1.10	1.05	1.95	0.60	1.09	0.99	0.35
ハシブトガラス	0.29	0.89			1.17		0.55	0.41	0.17
確認種数	35	30	37	29	31	27	33		

たことは予想外の数値であった。全体的には春季の方が秋季より密度が高く、初夏の里山の賑わいを印象付けた。調査日別では、春季の3月下旬～4月上旬では15～19種の確認であったが、4月中旬～5月中旬には夏鳥の渡来と旅鳥の一時的な生息等により27種が確認された日もあった。秋季の9月下旬頃には13～16種であったが、10月下旬～11月中旬の渡り時期には23種が確認された。総じて、春季期間中では46種が、秋季期間中では35種の確認であった。

平均優占度(調査定点ごとにその種の個体数÷全種の総個体数を算出し、7地点で平均したもの)を表3に示した。全体的にはこのベストテンに入った種は、平均確認密度のそれと同じ種であったが、順位は2位のアトリがメジロとウグイスの後に入れ替わっただけでその他は平均確認密度の順位と同じであった。コゲラがベストテン入りしたことは落葉広葉樹が多く自然な里山的環境によるものと考えられる。

調査地点別では、それぞれの地点の植生に違いがあり(表1)、そこでの優占度にも種の違いが見られた。その特徴的なところを挙げれば、A地点には農業用溜め池があり他地点とは異なった水辺環境であることから、カルガモやカワセミが確認され、用水の水抜きをした時にはクサシギとアオシギが確認された。B地点では沢があり杉林もあることからサンコウチョウが10位にランクされた。C地点では開けた斜面で草地や低木林のためホオジロ類やウグイスが多く確認されたことに加え、周囲の高木でイカルやカワラヒワなどの群れも確認された。D地点ではクヌギなどの落葉広葉樹に囲まれており、多くのカラ類などの他サンショウクイがベストテン入りし、前年にはこの近くで繁殖が確認された場所であった。E地点では調査区域で最も深い谷に面していて、樹冠から飛び出すカケスやイカルなどが度々確認された。また深い谷からはアカショウビンの囀りが聞こえた。F地点では尾根筋に近く落葉広葉樹に囲まれていてカラ類の他アトリの大群が確認されたことから、最も多くの個体数が確認された。G地点では尾根筋を渡るホトトギスやメボソムシクイなど森林性の種が確認された。

種数においてその優占度で比較すると、C地点で37種と最も多かったのは周囲が高木に囲まれ、斜面の草地面積が広く、生息環境の多様性も加わって多くの種が確認された。一方でD点やF点では高木に囲まれた林を好む種に限られた。優占度の高かった上位種にはヒヨドリが最も高く、どの地点でも1～2位を占めていた。次いでメジロ、ウグイス、アトリ、シジュウカラ、ホオジロ、ヤマガラ、コゲラ、エナガ、ヒガラが占めており、どの地点でもこれらの種が順位は入れ替わっているものの上位を占めていた。これらの他にツ

バメ、アオジ、ヤブサメ、カワラヒワ、イカル、カケス、サンコウチョウ等合計17種がそれぞれの地点で10位内に入っており、その地点での生息環境の特徴を出していた。

出現率(その種の出現日数÷全調査日数)を表3に示した。調査日にはヒヨドリ、シジュウカラ、ホオジロ、コゲラの4種が毎回確認され、お馴染みの里山の住人とも言える種であった。次いでメジロ、ヤマガラ、ウグイスが希に聞けない日もあるという程度の差であった。次いでキジバトが7割、イカルが6割程度、アオゲラ、センダイムシクイ、ヒガラ、カワラヒワはほぼ5割程度の確認であった。

4 考 察

羽坂林道の同じ調査区域における2000～2002年の3年間の観察記録(柳町, 2009)では合計66種であったが、今回の調査で初めて確認された種を加えると75種となった。即ち、今回の調査では確認されなかった種はゴイサギ、アオサギ、マガン、オオタカ、ノスリ、カッコウ、フクロウ、ヤマセミ、カヤクグリ、マミジロ、アカハラ、エゾセンニュウ、キマユムシクイ、キクイタダキ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、クロジの17種であった。一方で今回の調査で初めて確認された種はツミ、ハイタカ、サシバ、クサシギ、アオシギ、アカショウビン、カワセミ、ツバメ、イワツバメの9種であった。この75種をベースに、調査日数と確認種数の観点から今回の調査と比較すれば、2000年には14日間で49種の確認だったが、その中で今回は8種が未確認だった。同様に、2001年には11日間で52種の確認だったが8種が未確認だった。2002年には12日間で47種の確認だったが7種が未確認だった。各年の確認率は2000年が65.3%、2001年が69.3%、2002年が62.7%、2010年が77.3%であった。今回の調査の確認率が高かったことは調査日数が多かったことが一因と考えられるが、ラインセンサス法とスポットセンサス法との違いによるものかは、今後の継続調査によるところが大きいと考えられる。里山に生息する代表的な種としてシジュウカラやヤマガラがイメージ的に多いと考えられていたが、メジロとウグイスがこれらよりも高かったことは新しい認識となった。

今回の調査から、変化に富んだ里山の林相が多くの野鳥を育む環境であることが示唆され、この環境保全に繋げていくことが大切であり、今後も継続した調査が必要であろう。

引用文献

- 福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会編, 1998, 福井の鳥とけものたち. 福井県県民生活部自然保護課, 福井県, 222p.
- 福井県, 2002, 福井県の絶滅のおそれのある野生動物(福井県レッドデータブック・動物編). 福井県福祉環境部自然保護課, 243p.
- 大迫義人, 納村 力, 多田雅充, 1996, 福井県の丘陵地における鳥類相の効率的な調査日数と調査時期. 福井県自然保護センター研究報告, *Ciconia*, (5), 39-45.
- 柳町邦光, 2009, 羽坂林道周辺の鳥類相とその季節変化Ⅱ. 福井市自然史博物館研究報告, (56), 35-38.

The bird fauna of around Hazaka Woody Pass in 2010

Kunimitsu YANAGIMACHI

Abstract

There have been surveyed a bird fauna inhabiting with the spot-census method around Hazaka Woody Pass in the west suburbs in

Fukui City at spring and autumn season in 2010. As the result, a total of 58 species of 24 families belonging to 9 orders was recorded during this period. This consists of 27 species of resident bird, 14 summer birds, 13 winter birds and 4 migratory birds. 6 rare species which were registered on Fukui Prefecture Red-Data-Book in 2002(animals) were also included. Additionally 22 species among them seemed to be breeding in this area with high possibility. 46 species were recorded in spring season and 35 species were recorded in autumn season. *Hypsipetes amaurotis* was always the highest observed one as averaged density, the averaged possession and the appearance rate.

A total of 75 species was recorded on the last three surveys. Many birds inhabits in this area and many seasonable birds make good use of this area as good rest spot during migratory in spring and autumn season. It is important to study the bird fauna for preserving this kind of nature environment at country forest, so we have to keep on observing this area in the future.

Keywords: Bird fauna of country forest, Hazaka Woody Pass, Spot-census method